

【ポスター発表】

社会福祉領域における「エピソード記述」の援用可能性について（その1）

— 先行研究の検討から —

○ 同志社大学大学院 藤本芳明 (8794)

李善恵 (同志社大学・7652)、市瀬晶子 (関西学院大学・7583)、大倉高志 (同志社大学・8257)
小山聡子 (日本女子大学・2297)、加納光子 (武庫川女子大学・955)、木原活信 (同志社大学・1851)
種橋征子 (関西大学・5861)、松本理沙 (同志社大学大学院・8113)、森口弘美 (同志社大学・4484)

〔キーワード〕 エピソード記述、鯨岡理論、質的研究法

1. 研究目的

本研究の目的は社会福祉領域において、エピソード記述の果たす役割を明らかにすることである。近年、鯨岡(2012)らを中心に主に保育、教育、心理学の領域において、エピソード記述を分析に用いた研究論文が見られるようになってきている。鯨岡(2005)は保育実践を例にとり、従来の保育記録に求められる「客観的な記録」は、誰からみても同じ結論を見いだせるという反面、実践者が利用者と関わる中で実践者自身もつ本当の声が見過されていることを危惧してきた。その後、保育の現場において、エピソード記述を用いた実践の取り組みが取り上げられ、保育者自身が自らの内なる声を聞き、新たな気づきや視点を得る事例が現れ始めている。岡花ほか(2008)は、保育カンファレンスにエピソード記述を用い、保育者の書いたエピソードについて、他の保育者からのメタ分析を受けることにより、保育者自身が自ら振り返りを行うよう取り組み、また相馬ほか(2011)は保育者養成課程においてエピソード記述を用いた教育実践を行っている。エピソード記述を用いた取り組みは広がりを見せており、社会福祉領域においても援用可能と考えられる。本研究では先行研究の検討を行い、エピソード記述を用いた研究の動向を把握することによって、社会福祉領域における今後の援用可能性について展望する。

2. 研究の視点および方法

論文検索サイト CiNii を用い「エピソード記述」に関する先行研究について検討を行った。論文における執筆者の研究視点から、保育学、教育学、心理学等に分類を行った。また共同研究会(同志社大学社会福祉教育・研究支援センターのプロジェクト)において、参加メンバーがエピソード記述を実際に行い明らかになった「エピソード記述における三つの視点」を用い先行研究を分類した。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守して行った。他説の引用に際しては、引用元を正確に明記する。

4. 研究結果

エピソード記述を用いた研究は、①「書き手である研究者が心の揺さぶりを、自らメタ分析するもの」、②「援助者が、利用者の支援をした自分をメタ分析するもの」、③「書かれたエピソード記述を、第三者がより客観的に見て分析するもの」の3つに類型化することが出来た。CiNii におけるキーワード検索により「エピソード記述」でヒットする先行研究の数をみると（2014年8月2日時点）、総数43本の内、教育学が20本と半数近くを占めており、ついで心理学(8本)、保育学(7本)の順となっている。社会福祉学は2本と他の領域と比べるとまだ少ない。また、研究対象としては児童とその親や保育者を扱ったものが多くを占めるが、児童の中でも言葉をもち始めた幼児に関するものや、言葉の理解が難しい自閉症をもつ児童、また言葉の理解が特有な高機能自閉症児・者を対象としたものが散見された。

5. 考察

エピソード記述を用いた研究領域に、教育学、心理学、保育学が多く見られるのは、提唱者である鯨岡の影響が大きく影響していると考えられる。しかし、教育実践におけるエピソード記述の使用は、社会福祉士等の専門職養成課程をもつ社会福祉学においても援用可能だと考えられる。また研究対象を鑑みても、先行研究における高機能自閉症児・者に対する支援は社会福祉領域においてもとりわけ早急な研究課題となっている。これまで、質的研究において中心的な役割を果たしてきた、面接調査やインタビュー法は対象者の語りを前提として行われており、言葉の問題を抱える障害児・者の研究において限界を抱えてきたと言える。エピソード記述は彼らに関わる援助者が、その生活世界を間主観的に捉え描き出すことができる。そのような、これまで「拾われなかった声をもつ人」の支援こそ社会福祉の対象領域であり、エピソード記述は社会福祉領域においても大きな可能性をもっていると言える。今後、とりわけ既存の質的研究では了解困難であった対象者の支援、研究においてエピソード記述は広がりを見せると考えられ、その動向を追っていく必要がある。

【参考文献】

- ・鯨岡峻 (2005)「エピソード記述入門—実践と質的研究のために」東京大学出版会
- ・鯨岡峻 (2012)「エピソード記述を読む」東京大学出版会
- ・岡花祈一郎・杉村伸一郎・財満由美子ほか(2008)「保育者養成における授業の研究(8)エピソード記述の指導と実習時期との関連について」『学部・附属学校共同研究紀要』(広島大学学部・附属学校共同研究機構)37, 229-237
- ・相馬靖明・児嶋雅典・菅田栄子ほか(2011)「エピソード記述を用いた保育カンファレンスに関する研究」『松山東雲短期大学研究論集』41,27-37